

INTERNATIONAL BODY PSYCHOTHERAPY JOURNAL

The Art and Science of Somatic Praxis

Published by the European and United States Associations for Body Psychotherapy and Somatic Psychology

翻訳 上倉安代

IBPJ 春／夏号
要 約

依存，トラウマ，感情的喪失をともに治療すること

——臨床的・歴史的観点から——

Gabor Maté

Gabor Maté は、20年にも渡る家庭医と緩和ケアの経験を経て、医師を退職した後、バンクーバーのダウンタウン・イーストサイドで10年以上、薬物依存や精神疾患に苦しむ人々の治療に携わってきた。彼は、ベストセラー作家であり、4冊の著書が30カ国語で出版されており、また、国際的に有名な講演者で依存症、トラウマ、小児発達、ストレスと病気に関する専門的知識から、高い人気を誇っている。彼の依存症に関する著書『In the Realm of Hungry Ghosts』は、ヒューバート・エヴァンス ノンフィクション賞を授与された。その画期的な医療活動と執筆活動により、彼はカナダで最高の栄誉賞、そして故郷のバンクーバーからシビック・アメリカ賞を授与された。

フェルトセンス・ポリヴェーガルモデル (The Felt Sense Polyvagal Model™) によって、依存症治療に変革をもたらす

Jan Winhall, Stephen W. Porges

本論文は二部構成であり、我々の自律神経系への理解に革命をもたらす、先駆的な仕事を成し遂げたStephen Porgesによるディスカッションから始まる。第一部では、Porges は依存症の理解へ向けて、自身のポリヴェーガル理論（多重迷走神経理論）を適用した。第二部では、トラウマの治療の経験が豊富なJan Winhallが、Eugene Gendlinのフェルトセンス（内受容感覚）

Editor-In-Chief Madlen Algafari editorinchief@ibpj.org

Deputy Editor Aline LaPierre deputyeditor@ibpj.org • Managing Editor Antigone Oreopoulou managingeditor@ibpj.org

とポリヴェーガル理論の安全に基づくニューロセプション(neuroception)とを統合した、依存症の理解と治療に関するフェルトセンス・ポリヴェーガルモデル™を紹介した。本論文は、あらゆる治療法を補完し、強化することのできる、一般的な枠組みを提供するものである。この非スティグマ化、身体化、強度ベースのモデルは、現在の臨床を支配するトップダウン型の疾患ベースによる依存症理解とは、一線を画すものである。

具現化された存在であること (Embodied Presence)

——嗜癖行動を扱う上で不可欠な治療姿勢——

Nancy Falls

本稿では、セラピストの具現化された存在感に焦点を当てた。具現化された存在感は、嗜癖的行動をとる人々やトラウマを経験した人々に働きかけるための中心的な要素である。概要として、具現化された治療的存在感の理解へ向けて、理論的枠組みを提供した。ポリヴェーガル (多迷走神経) 概念である共同調節、社会的交流、ニューロセプション(neuroception)を用いて、勇敢な空間の創造、出会いの準備、5つの不可欠な資質といった3つの領域で、具現化された存在へ向けた実践的応用と具体的戦略を提示した。

依存症を患う女性の心に対するフォーカシングと中国医学を用いた治療

Dawn Flynn

本論文では、トラウマを経験し依存症を患う女性達が抱く特有なニーズについて、ディスカッションを行った。中国医学モデルでは、心臓、心膜および血液のエネルギー機能が、トラウマによる感情的・身体的影響に対処するために、身体の保護的メカニズムを発達させていると捉える。こうした適応の仕方は、しばしば依存症につながりうる孤立感や絆の形成の難しさをもたらすものである。フォーカシングの実践および患者と実践者間の共有の場を

統合したアプローチは、女性達が生来もっている身体の知恵とつながり、心の傷を癒し、依存から回復していくことを援助した。

トラウマと依存治療へ向けた非指示的な正の強化の枠組み

Steven Hoskinson, Bach Ho

人々は支援を通じて成長し、癒される。本論文では、依存症治療の主流が、クライアントのネガティブな感情とネガティブな切迫性（訳者注：不快情動を経験して衝動的に行動を起こす傾向。例えば、攻撃行動、自傷行為、アルコールや薬物の乱用・依存など。）を強化しがちである点について論じた。特にネガティブな切迫性によって、クライアントは負の強化から抜け出せなる。つまり、ネガティブな感情によって揺さぶられた後に、そうしたネガティブな感情が緩和され、結果的に、それが次のネガティブな感情の循環などを強化するという具合に。これが、広く考えられている依存のダイナミズムである。本論文では、シェイピングのパラダイムから、依存症とトラウマ治療のための正の強化の枠組みを形成するためのプロトコルを概説した。このOrganic Intelligence® (OI) の枠組みは、自由連想の会話によって導かれる自然な関係性の条件を確立するものである。治療的同調と特定の強化プロセスにより、クライアントの「今ここ」での快楽的で意味のある反射が増幅され、クライアントは、いたるところに存在する否定的なバイアスの支配から、徐々に解放されるようになる。OIは、ネガティブ強化からポジティブ強化へといった基本的な臨床シフトを提案した。それは、トラウマや過去を処理するためではなく、クライアントの処理能力を向上させるという第一の有機的な衝動と一致するからである。

ソマティック・ポスト・エンカウンター・クリニカル・サマリー

(The Somatic Post-Encounter Clinical Summary ; SPECS)

——実践者と研究者のための新しいソマティック・インテリジェンス測定尺度——

Aaron Freedman*, Theresa Silow*, Steuart Gold, Thomas Pope, Denise Saint Arnault

*共同第一著者

著者らは、ソマティック・サイコセラピーの効果検討のための研究プロジェクトを立ち上げるにあたり、セラピストが記入できる、ソマティック・データを収集するための尺度を必要としていた。何度も繰り返し、臨床家の経験と研究の有効性のバランスをとって、Somatic Post-Encounter Clinical Summary (SPECS)を作成した。SPECSは、ソマティック・サイコセラピーのプロセス、介入、質的アウトカムを追跡・測定し、ソマティック・サイコセラピストを訓練し、彼らのセッションのデータ収集を構築するための1ページのツールである。本論文では、臨床家と研究者を対象として、SPECSの開発、方法論、使用方法について解説した。SPECSは、臨床家が自らの実践を振り返り、スキルを向上させるのに役立つだけでなく、様々な専門家がソマティック・サイコセラピーのプロセスについて報告するためのシンプルで統一された構造を提供するものである。また、大規模な研究プロジェクトにおいて、ソマティック心理療法のプロセスや効果に関するデータを収集するためにも使用可能である。SPECSが我々の分野のみならず、隣接する関連分野における実践者や研究者によって、広く利用され、改良されることが望まれる。

関係性トラウマ療法 (Relational Trauma Therapy) の展開

——ランニング・テクニクの機能不全から新しいトラウマの方法論へ——

Kolbjørn Vårdal

本論文では、Merete Holm Brantbjerg と Kolbjørn Vårdalが、専門家として取り組んだ関係性トラウマ療法の開発について述べる。その発展は、質的研究のためのAlvessonとKärremanの5つの方法論的原則の視点から、記述されており、the Bodydynamic shock trauma方法論に起源があり、最終的に破綻した「ランニング・テクニク（訳者注：クライアントは、安全

な場所へ走ることをイメージしながら、腕を振り、頭を前に向けて走り、安全な場所を選択する。／適用の禁忌例もある）」の適用によって直面した課題に焦点を当てた。経験的な観察から、効果に対してセラピストが抱く理論的な期待と実際の体験がミスマッチだったと時に、機能不全と判断される。BrantbjergとVårdalは、ランニング・テクニックの適用時に、2つの機能不全を経験した。第一に、ランニング・テクニックを適用したクライアントのトラウマ反応が崩壊したこと、第二に、数例において、ランニング・テクニックの適用中に、クライアントがセラピストに非常に強い愛着を持ち、高い覚醒を調整するためにセラピストを必要とするパターンが強化されるということであった。このテクニックの断片化された機能を整理し、分解し、これらの機能不全がもたらす問題への取り組みを通じて、BrantbjergとVårdalは、投薬の原則やトラウマ解消のプロセスにおける様々な段階を考案するといった新たな方法論を生み出した。本稿では、BrantbjergとVårdalの幅広い研究成果を紹介するとともに、関係性トラウマ療法の開発へ向けて、彼らがどのように批評を統合していったかについて論じた。

現代のライヒ派分析における境界性パーソナリティ障害

Genovino Ferri, Luisa Barbato

Teaは、境界性パーソナリティ障害の若いイタリア人女性である。彼女の病歴を聴取した後、性格分析的ヴェジト・セラピー (Character-Analytic Vegetotherapy) を用いて、彼女の治療過程およびそれがどのように身体の活性化として現れるかをまとめた。そして、現代のライヒ派分析における境界性パーソナリティ障害の理論をレビューした。性格分析的ヴェジト・セラピーは、顕著な複雑さと明瞭な方法論を備えた、身体化された治療技法として提示された。

生命, エントロピー, 情報, 感情, そしてトラウマ

Homayoun Shahri

本稿では、生物学、化学、熱力学、情報理論といった概念を紹介し、生体内のエントロピーの減少に基づき、生命がどのように維持されているかについて論じる統一理論を導き出した。また、情報理論的な神経科学に基づき、エントロピーの概念をいかに心理的システムに拡張できるかを示すとともに、感情が一元的な心身構造の中でエントロピーを示すことを示唆した。情動と感情の関係およびそれぞれが精神内で果たす役割について、情動にまつわる過剰なエネルギーを排出するためのテクニックとともに論じた。関係性トラウマの治療を促進する技法に基づいて、対象関係論および自己心理学を簡素化した理論を提示した。これらの理論に基づき、記憶の再統合理論について論じる。記憶の再統合理論と情報理論的神経科学に基づき、2つの技法、すなわち、トラウマ記憶の感情的内容を消去する可能性のある技法とショックトラウマの治療法を紹介した。

Reichを知る：

ボディ・サイコセラピーの起源 —— FreudからReichまでの性格の概念——

Håvard Friis Nilsen

Wilhelm Reichは、1925年に最初の精神分析的モノグラフ、*Der triebhafte Charakter* [The Impulsive Character]を出版した。その年に出版された、精神分析出版社の最も重要な出版物の1つであり、Reichの“The Impulsive Character 「衝動的性格」 ”に関する臨床像は、今日「境界性人格」と呼ばれているものの先駆的な研究であり、後に彼が体の姿勢を用いた性格分析、さらには身体の感情表現に踏み込むための概念の基礎を築いたものであった。今日では、Freudのオリジナルな「性格」に関する理論的理解は、より単純な身体表現の概念を優先するあまり、

INTERNATIONAL **BODY PSYCHOTHERAPY** JOURNAL

The Art and Science of Somatic Praxis

Published by the European and United States Associations for Body Psychotherapy and Somatic Psychology

通常, 忘れ去られるか, 見過ごされている。本稿では, FreudからReichに至るまでの性格概念の独自の発展について再考した。

Editor-In-Chief *Madlen Algafari* editorinchief@ibpj.org

Deputy Editor *Aline LaPierre* deputyeditor@ibpj.org • Managing Editor *Antigone Oreopoulou* managingeditor@ibpj.org